資料1－1

日本原子力学会　原子力発電部会
「次期軽水炉の技術要件検討（フェーズ2）」
ワーキンググループ

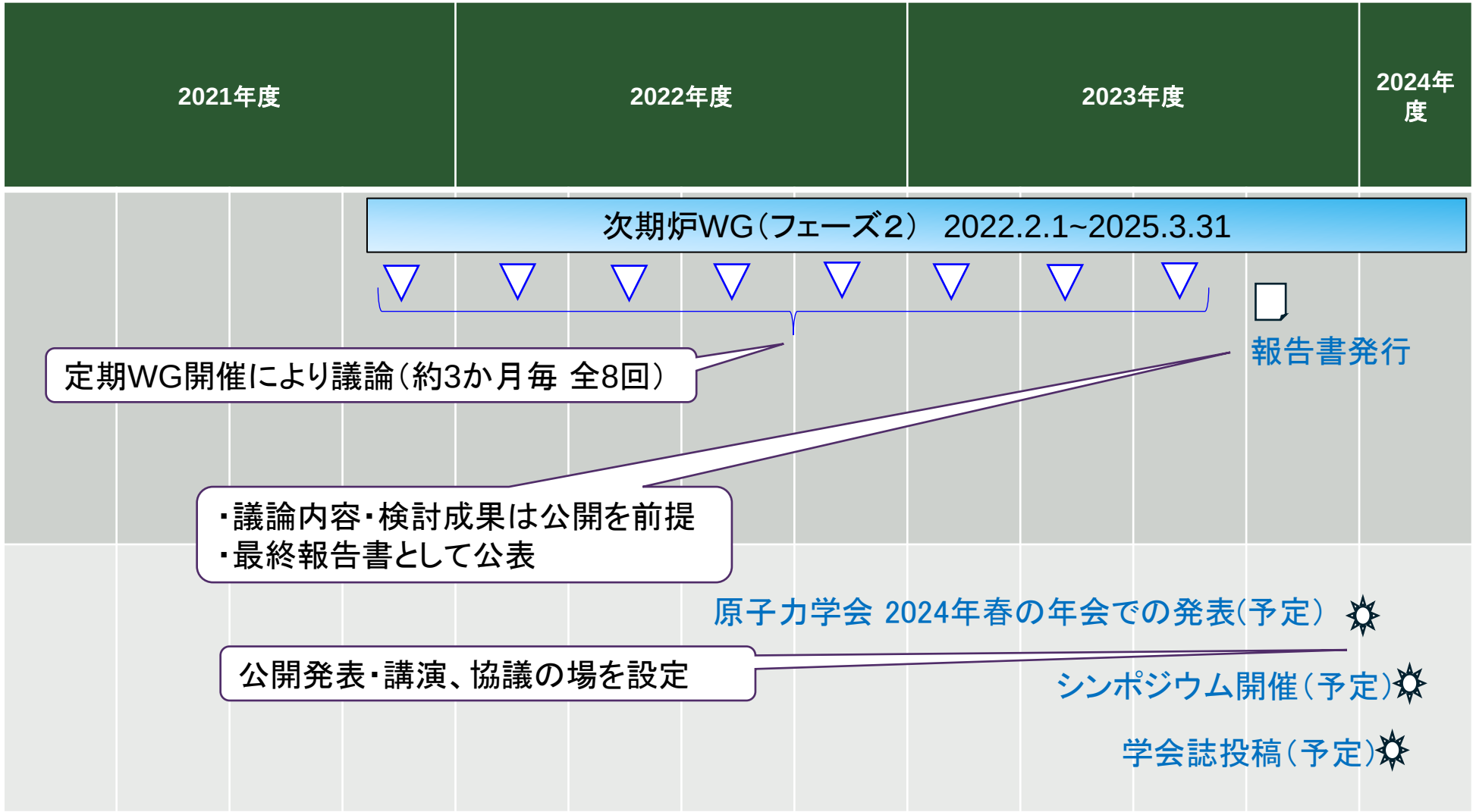
【第１回議題】

WG設立趣旨、全体スケジュール/議題（案）

1. 「次期軽水炉の技術要件検討 」WG(フェーズ 2)設立趣旨

現況・背景	● 日本が抱えるエネルギー問題として、自然災害を起因とした大規模停電の経験を踏まえた電力の安定供給の重要性、東日本大震災以降高止まっている電気料金、エネルギー自給率の低さ など、多くの課題が残されている 。 ● カーボンフリー電源として既に確立した技術であり、且つ大規模な電力を安定的に供給できる原子力発電は重要な役割を担う。 ● 2050年カーボンニュートラル（CN）を実現することを念頭に作成された第6次エネルギー基本計画においても、原子力については国民からの信頼確保に努め、安全性の確保を大前提に必要な規模を持続的に活用 していくとの方針。 ● 原子力発電所建設には準備期間も含めて十数年にわたる長い期間を要するため、原子力を活用して2050年CNを実現するには、速やかに建設を計画する必要あり。新増設・リプレースに向けた議論を早期に開始することが重要。
目標	● 安全性、経済性、環境適合性など社会受容性の基本要件に対して、次期軽水炉が既設炉よりも優位性を有する項目を論点として抽出する。 ● 現行の規制や制度は既設炉を前提に構築されたものであることを踏まえ、既設炉よりも優れた次期軽水炉のコンセプトを実現するために考慮すべき規制や制度も論点として抽出する。 ● 最近の国レベルでの議論も参考に、次期軽水炉が既設炉よりも優れ、社会に信頼されるコンセプトを有することを示す。 ● 次期軽水炉のコンセプトを実現するために考慮すべき規制や制度について、現行の規制や制度の背景・根拠を調査し、海外状況も参考に次期軽水炉のポテンシャルを最大限発揮できる規制や制度の考え方を検討・整理する。 ● WGの成果を社会へ発信し、多様な声を聞いて合意形成を図るために、シンポジウムなどを通して積極的に社会とのコミュニケーションを図っていく。

2. 次期炉WG（フェーズ2）全体スケジュール（案）



3. 次期炉WG（フェーズ2） 各会合での議題（案）

会合	開催日程	議題案
第1回	2022.2.24	キックオフ 1. WG設立趣旨、WGの実施計画／全体スケジュール／議題（案） 2. WGで議論する論点抽出
第2回	2022.5月頃	次期軽水炉のコンセプト 1. 次期軽水炉の設計方針（PWRを例にした既設炉に対する比較） 2. 次期軽水炉の安全性に関する技術内容の確認（国内外の最新炉との比較分析）
第3回	2022.8月頃	次期軽水炉のコンセプト 1. 次期軽水炉の安全性に関する技術内容の確認（国民に信頼され得る次期軽水炉の優位性）
第4回	2022.11月頃	次期軽水炉のコンセプト 1. 次期軽水炉の経済性に関する技術内容の確認（海外情報の整理、国民に信頼され得る次期軽水炉の優位性）
第5回	2023.2月頃	次期軽水炉のコンセプトを実現するために考慮すべき規制や制度 1. 新増設・リプレースに対応する規制や制度の考え方(注)
第6回	2023.5月頃	次期軽水炉のコンセプトを実現するために考慮すべき規制や制度 1. 立地の適性評価の考え方(注)
第7回	2023.8月頃	技術検討のまとめ 1. WG報告書の骨子
第8回	2023.11月頃	技術検討のまとめ 1. WG報告書のドラフト 2. 対外発表（2024年春の年会、シンポジウム）の骨子・資料ドラフト 等

(注)議題についてはWGの議論の進展に応じて協議の上、適宜変更することも有り得る